

令和6年度 富山県障害福祉分野の ICT 導入モデル事業補助金による事例

法人事業所名 特定非営利活動法人 憩いの家
理 事 長 片 町 隆 夫
所 長 大 井 典 子

1、 ICT 機器の製品名

- ・勤務状況・活動記録・工賃計算に関するシステム化対応
株式会社 MSC「らくらくケアストーリー」

2、 ICT 機器導入前の課題

- ・20人～30人の利用者の活動記録、勤務状況はすべて職員の手書きで行っていたため、当日の来所者の記録用紙のピックアップ、書き込みの労力と記入時間、利用者人数相当の用紙が必要となっていた。
また、書き込んだ用紙は各利用者別にファイルする労力が必要であった。
- ・利用者の工賃計算は、項目別に活動時間をエクセル入力し、企業様から得た金額を過不足なく振り分け、端数などは修正するなど、多くの時間をかけて仕上げていた。
- ・会計職員は、工賃を作成した明細書に入力し、金種を仕分ける必要があった。
- ・利用者に渡す「代理受領通知書」は職員が毎月作成していた。

3、 ICT 機器導入の推進方法

- ・2024年10月上旬 (株)MSC様と開発計画案の作成、決定
- ・2024年10月下旬 基本設計の確認
- ・2024年11月～ プログラミング設計、検査
- ・2025年2月～ テストケース実施、検査、データ移行

- ・ 2025年3月～ データー移行、初期化の実施、本番運用

4, ICT 機器導入後の成果

① 業務効率化について

- ・ 3月の試運用でさらに感じた改善希望などを(株)MSC に依頼しながら、より憩いの家に必要なシステムになった。
- ・ 当該システムを導入したことで、利用者の記録が一覧で分かるようになった。さらに記録用紙の必要がなくなり、用紙が大幅に減少した。
- ・ 利用者一日の必要な記録を入力することで、最終的には工賃まで自動計算された。

② 職員の負担軽減について

- ・ らくらくケアストーリーは常勤職員全員のノートパソコン（7台）に導入されたため、各職員は随時システムの使用が可能になった。
- ・ 活動記録は、以前は鉛筆とケシゴムで書き、訂正などの書き直しに時間がかかっていたが、パソコン入力では容易に加筆修正ができ、時間短縮になった。
- ・ 利用者の一を入力することで、実績記録から工賃計算、給与明細、国保連合会の送信準備まで整うようになり、時間短縮になった。

5, 今後の課題

- ・ 特になし。
- ・ システム開発の(株)MSC が操作について随時サポートをしてくださるので、特段の心配がない。